



参考2. AL-ILシーソーの構造

アイスランド低気圧(IL)が強い年からアリューシャン低気圧(AL)が強い年を引いた差で示した循環変動の分布図。(2月10日～3月12日の平均)

- ・ 上図は図1bから図1aの場を差し引いて、シーソーに伴う海面気圧の変動成分を取出した図。例えば、1980年代前半・中盤から1990年あたりにかけて起こった変化に相当(シーソーの傾きの逆転)。北太平洋では弱まったALに対応して高気圧性の偏差が見られる一方、北大西洋ではILの強まりに対応して低気圧性の偏差が見られる。また、この南方には高気圧性偏差(大西洋の亜熱帯高気圧の強まり)があり、この南北の循環偏差のペアが「北大西洋振動(NAO)」に対応する。
- ・ 下図は同様にして作ったシーソーに伴う対流圏上空の循環変動成分を示す図(図2の上図と同じ)。北太平洋上空には海上のALの弱まりに対応した高気圧性偏差が、また北大西洋上空には強化した海上のILに伴う低気圧性偏差がある。それと繋がったように見えるカナダ上空の低気圧性偏差と、米国南部上空の高気圧性偏差は共に、図1cや参考3で説明される「大気の架け橋」の名残りである。

※ ALが強くてILが弱い場合は、偏差の符号(高気圧性が低気圧性か)が全て反転する。